

令和2年度 亶理町スポーツ推進審議会 会議録

○日時：令和3年2月18日（木）午後1時30分～午後3時

○場所：亶理町役場2階大会議室

○出席者

・委員：末木清一、松本俊彦、白石秀明、大坂好克、佐々木隆夫、日下三男、江川茂
計7名出席

・事務局：教育長 奥野光正、生涯学習課長 片岡正春、生涯学習課班長 庄司 洋、
主幹兼副班長 宮嶋 信一、主事 千葉 祐樹

1 開会

宮嶋 信一主幹兼副班長の司会により、会議を進行する。

2 あいさつ

末木会長あいさつ

奥野教育長あいさつ

3 協議

亶理町スポーツ推進審議会条例第7条第2項に基づき、末木会長が議長となり、議事進行を行なう。

(1) 鳥の海公園多目的広場について

・資料に基づき事務局から説明

〔意見・質疑等〕

日下委員 河北新報の記事によると、2月15日から提案書の受付を開始しているが、現在、提出してきたところはあるか。

事務局 2社から質問を受け付けたと聞いている。提案書の提出期限は月曜日までであり、別の課で取りまとめているため、詳細は把握してない。

日下委員 提出してきそうなどころはあるのか。

事務局 町としては、質問が来ているので、乗り気であるという認識である。

日下委員 質問内容について、言える範囲で教えて頂きたい。

事務局 スポーツ施設については、維持管理の仕方の確認であった。他は、観光入込数などについての質問であった。

日下委員 事業者の立場で考えると、鳥の海温泉が計画エリアから外れていることは、施設の活用を考えたときに重要になると思うが、事業者に対して、鳥の海温泉との関係性をどのように説明していくのか。

事務局 鳥の海温泉は複数年で佐勘に指定管理している。この計画では、温泉以外の

集客を図るため、新たな施設等を活用してもらい、相互利用による相乗効果を図ってもらいたいと考えている。

日下委員 佐勘が申し込みをして一体的に管理できればいいが、全く知らない事業者が入った時に連携するというのは難しいのではないか。スポーツの観点で言うと、スポーツで汗を流した時や、合宿するのに宿泊施設が必要となった時、近くに温泉があるので、一体化した連携が出来れば相応しいものができる。そこを上手く事業者の説明しなければならない。

資料の P23 に 15 項目の事業概要として、計画を記載しており、私もその通りだと思う。これをスポーツの観点で見ると、③と⑧でブランディングが必要としており、どの企業や自治体でも訴求している事である。ブランディングが何かというと、荒浜地区にどのようなストーリーがあるかということで、そこから発したものがブランディングに繋がっていくのだと考えております。いちごであれば転換作物として砂場のところに懸けてやってきたことがブランディングとなり、仙台いちごの名が知られてきたのだと思う。そうしたときに、果たして荒浜でどのようなブランディングが達せられるのか、町として求められているのだと思う。その基礎となるものを見つけた上で事業者に訴えかけていくことで、スポーツをきっかけとしたブランディングが達成されていくのではないか。

事務局 温泉との関係については、佐勘でも合宿を受け入れたいという話がある。施設の申請の関係で、現在は翌 1 ヶ月までしか申請ができないため、合宿が組めるように申請期間を延ばすなど、町としても温泉を利活用し、相乗効果が図れるよう体制を整えていく。スポーツのブランディングについて、県内であれば、楽天の試合を子ども達が間近で見られることで、意識や技術力の向上に繋がっている。そのことも踏まえ、コンサルの提案として、プロサーファーを起用し、身近なセッションをするなど、他にはない魅力を出せるのではないかと考えている。

江川委員 危険区域内だけを活用する計画で、区域外まで行かないという内容でよいか。
事務局 災害危険区域の利活用ということで、このエリアを特色のあるエリアにする計画である。

江川委員 鳥の海を中心として、吉田浜、大畑浜まで利用できればもっと色々な計画ができていいのではないか。また、ストロベリーパークの計画があるが、ここに作るのではなく、荒浜にあるいちごハウスを上手く活用すれば、荒浜地区として、全体的にもっと広く活用ができる。ストロベリーパークの予定地は、松の木を植えてキャンプ場とし、鳥屋崎周辺に民宿の誘致を検討してみてもどうか。鳥の海温泉は合宿には値段が高いと思う。

事務局 宿泊施設をやりたいという業者から問い合わせが来たと聞いている。また、佐勘から合宿プランを検討していると聞いている。併せて、佐勘では、サッカー場等の維持管理及び、インターネットでの利用申請、カード決済のシス

テム等を導入により、スポーツ施設を運用したい旨の提案があった。今後は、事業者を募集・決定することで、様々な提案があると思うので、佐勘も含め、管理面を詰めていかなければならないという状況である。

佐々木委員 事業者が決まった場合に、町の計画どおりやるよう押し付けていいのか。例えば、パークゴルフ場をやりたいと言われたらできるのか。

事務局 町の構想であり、事業者が決まれば詳細を詰めていくことになる。国の補助金を使っているため、適正化法により決まった年数は形状変更ができない。将来的に、事業者が自己資金でやりたくなれば町との協議となる。

佐々木委員 いちごハウスの運営について、郡公社でやっているがノウハウがある人がいないと厳しいという声がある。山元町は全てコンピューター化しているようだが、見通しはあるのか。

事務局 民間のノウハウをフルに活用しながら、いちごハウスを成功に持っていきたいという考えである。

松本委員 沿岸部全部が同じことを考えていて、名取サイクルセンターが再開し、周りにアパホテルを立てる予定がある。岩沼は空港近くに公園があり、賑わっているようだが、他に施設がなく、野放しに遊ばせている。山元町はパークゴルフのコースを作る構想があるという近隣市町村の状況の中で、亘理が同じような施設を作り、業者を入れて頑張っても、集客できなければ継続できなくなる。それを考えたとき、亘理になにかあるかとなれば、特色として温泉、いちごがある。いちごについては、事業者に作ってさせるか、民間と契約してあるものを活用するかわからないが特色を活かすべき。また、サーファーの話があったが、七ヶ浜でサーファーのNPO団体を設立し、大会等を開催している。その団体が、亘理に目をつけ、大会が出来るか波を見ていったと聞いた。もし、大会ができる波であれば、その団体等と協力することで独自性を出すことができる。他と同じでどこに行っても同じ思われたら困る。遠方からでも独自性があれば人は来る。とにかく亘理に来たらこれというのが欲しい。施設の活用もそうだが総合的に考えていかなければならない。お客さんが来た時に満足して帰ってもらえるように、民宿などの整備も考えなければならぬ。

事務局 構想として、このエリアに来れば、1日あるいは宿泊して楽しめるようなプランを検討してる。具体的にはP23の15の事業概要のとおりだが、あくまで請け負った業者のノウハウや活用しながら、アイデアをもらい協議していくこととなる。

事務局 また、今回大きいのは、町の財源だけでなく、事業者で資金調達してくださいという提案事業となっており、国の税制緩和等の補助事業を活用すれば、手を挙げる事業者が出てくるのではないかと考えて計画している。民間のノウハウと資金力を活用して新たな事業展開を見込んでいる。

日下委員 スポーツ推進審議会では、スポーツに力点を置いて町づくりの進め方を考え

るべき。この計画は、集客や、経済を優先しているように感じる。荒浜地区の活用を考えたときに、農作物、スポーツ施設、温泉など、施設の活用方法を考えるのではなく、スポーツを町民、県民にどのように提供できるのかというのが先であるべきだろう。この考え方では議論の進め方が違うと思う。私は本審議会の委員であり、スポーツのことを大切にしているので、健康増進、スポーツの果たす役割、そして教育長が挨拶で話した3つの間（時間・空間・仲間）を起点としたときに、スポーツが町のためにどのような役割を果たすことが出来るかということを考えるべきであろうと思う。経済のことは、言い過ぎかもしれないが二次でいいとさえ思う。この事業を新聞で読んだときに、余りにも経済優先の発想が感じられたために違和感を覚えた。スポーツを第一に考えた場合は、今回巨理町が進めている公募とは逆に考えなければならない。

事務局 スポーツ推進審議会なので、スポーツ施設、多目的広場の活用方法の議論が主となる。昨年の意見で、スポーツ施設だけでなく、周辺を一体的に考えなければならないという意見があったので総合的に説明した。町として観光面と相乗効果が図れると考えている。

日下委員 先ほど話があった、名取市のサイクルスポーツセンターをなぜあの場所に持って行ったかという、自転車で無ければならぬストーリーがあった。もともと、東北縦断自転車1周レースという三笠宮が一般公道を使いレースや博覧会をやったことで自転車熱が一層高まり、閑上に持っていくことになった。それから、自転車で健康増進を図れるのではないかということで、あの場所に施設が作られた。結局震災で流されたが自転車を核としてもう一度作ることとなり、再興したというストーリーがある。そして、それに共鳴した観光業者がくっついてきたという順番がある。長野の菅平でもスポーツの振興を目的としてラグビー場を整備した。広大な敷地があり、大学の人が使うことで、やがて大学ラグビー、社会人ラグビーが普及していった。スポーツという視点をもっと大事に考えないといけない。健康福祉という視点からも捉えていい。そうやって考えた後に観光振興がついてくるのが理想的で、町が今回進める公募は、言い過ぎかもしれないが、民間に下駄を預ける発想であり、行政の責任放棄とも思う。この広大なエリアを1億5千万で事業者に丸投げするのは変である。スポーツを主目的としてどんな活用ができるのか事業者にかかせ足かせを付けてでも考えさせるような条件を付けるべきだ。たとえば、高校駅伝を長年やってきたこともストーリーではないか。経済優先ではつまらない。もう少し他地域と差別化するべき。業者の募集など既に話が進んでいるのでそれはそれで良いが、私はいま話したような印象を持っている。

末木会長 各スポーツ施設の利用方法について、もう少し内容を練ったほうがいいのではないかという意見だが、昨年の会議で観光面も含めて考え、集客や交流人口を増やした方がいいのではないかという意見も出ていた。スポーツ推進審議会なのでスポーツを重点に考えた上で、それを踏まえて観光面および町の

構想を醸し出していければよいと思います。
他に意見が無いため次の議題に進みます。

(2) 令和3年度社会体育事業計画について

・資料に基づき事務局から説明

〔意見・質疑等〕

- 日下委員 コロナ過では、スポーツをする人が健康増進の機会を失ったと思うが、それにより、今年度、体育館など町内施設の光熱費は削減されたか。また、削減されているのであればその人たちに還元する考えはあるか。
- 松本委員 活動できない期間はあったが、電気は付けていたように思う。そのため、光熱費は減っていないのではないか。多少は減っているかもしれないが、その分使用料の収入も減っているため、経費が削減されたというほどではないのではないか。
- 事務局 亘理町では3～5月に施設を休館しているが、それ以降は通常通り開館している。年度途中なのでどのくらい削減されたかわからないが、大幅に削減されたというほどではないと思われる。
- 日下委員 中学、高校の部活動でかなりスポーツの機会を失っていると思う。その人達に還元する発想があったほうが良いと思う。それが行政の責務ではないか。
- 松本委員 体育協会は今年度の活動費の補助要件を緩和している。今までは経費の半分を補助していたが、コロナ過でできる活動があれば経費を全額補助することにした。
- 日下委員 旧来の考え方ではだめだと思う。どのようにして浮いたお金を彼らに還元するのかということがスポーツ行政にも必要だと思ったのでお伺いした。
- 日下委員 事業計画について、島根県知事が聖火リレーをやらないという発言をしていたが、亘理町はどのように考えているのか。
- 事務局 聖火リレーは県の実行委員会の決定となるため、町はそれに従う考え。実行委員会のメンバーは県内の市町村長で構成されている。
- 日下委員 JOCの森（元会長）の発言でボランティアに影響があったか。
- 事務局 聖火リレーに関しては、ボランティアをこれから募集するので、そのような情報は聞いてない。
- 日下委員 各種大会の実施について、コロナ対応により経費は増えるのか。今年度の実績と次年度の見通しを教えてください。
- 事務局 マラソン大会では陸上のガイドラインが出ており、県の陸連の話だと、消毒や誘導などが必要となり、経費増というより、実施自体が難しいという話であった。仙台ハーフマラソンは実施するようなので、実施方法や経費について参考にする。また、東北みやぎ復興マラソンの担当と話をしているが、ガイドラインにある1人あたりのスペース確保のため、参加人数を1万2千人から6千人に変更し、参加料を上げて経費を補填するという方法をとるとの

こと。

末木会長 6月に行われる予定の聖火リレーはこれから様々な動きが出てくると思いますが、関係各所と連携して問題なく進めて頂きたいと思います。それでは、次に進みたいと思います。

(3) その他

〔意見・質疑等〕

松本委員 各地区体育館を廃止して集約する構想があったと思うが、LEDリース期間の10年の間はやらないということが良いか。

事務局 構想はあるが、公共施設の整備に優先順位があり、給食センター、亘理小学校が優先で体育館はそれ以降の話となる。いつ頃になるというのは現時点では言えない。

松本委員 町内には、小さい体育館しかなく、公式の大会が開けない。プロの公式試合ができるような施設があって、子ども達が試合を見れば、Jリーグの時のようにそのスポーツは一気に普及する。亘理町にもそのような施設があれば、子供たちにいい刺激を与えられると思う。近隣の市町村の施設との兼ね合いもあると思うが、頑張って早く作ってもいいのではないかという意見である。

日下委員 スポーツ推進審議会に女性はいないのか。一般公募がないからか。それならば強制的に枠を作ってもいいのではないか。

中学校の先生は、部活動で教える時間が取れているのか。岩沼市は部活動に割ける時間がなく、仙台大学と連携協定を結んでいる。気仙沼市はスポーツ少年団に対してICTを使った指導をしている。山元町では昨年5月に協定を結んでいる。亘理町の教育現場での部活動指導の実態をお聞かせ願いたい。今日の審議会の議事録を広報やHPに載せて頂きたい。公的な会議で、私自らも責任を持って発言しているつもりなので、皆さんの同意が得られればHPに載せていただきたいというのが要望です。

末木会長 今日欠席の委員の方が女性ですが、ただいまの意見を踏まえながら、女性委員の参加について、事務局で検討してください。今回任期満了なので次期の自薦他薦から務めて頂ければと思う。

末木会長 部活動への指導員の活用について、教育長あるいは事務局から説明願います。
教育長 部活動について、岩沼市でやっているのは週1回だけである。これが実態と合っているかと言われれば難しいが、1つの取り組みとして参考としている。岩沼市は、亘理と比べて、市の中心に体育館があり、人の移動を考えた時に、立地がいいということで、人的な問題もある。文科省では、2025年から学校と部活を切り離すという動きがあり、先駆的な市町村の動きが拾われていくと思うが、周りの環境が整わないとすぐに切り離すのは難しい。また、町内の部活動はガイドラインに沿って実施しているが、部活動というのは、必ず教員がつかなければならないということではなく、自主的、自律的に、その

学校にあった形で運営している。2025年に向けて何らかの形で関係する団体の皆さんにご協力を得なければならないが、仕事をしている方をお願いする形になると思う。基本的には放課後、平日4時以降の活動になるため、これから相談していかなければならない。

日下委員 岩手県では高校でも部活を強制しているところがある。そこまでは言わないが、課外活動については自主的にやっていくことを基本に踏まえた上で、スポーツをやりたい子どもの競技力を少しでも高めてあげることが大事な視点だと思う。我々がどのような手助けができるのかという視点が必要となる。

末木会長 HPへの議事録の掲載について、事務局より説明願います。

事務局 HPへの掲載については前向きに検討します。

日下委員 掲載しない場合は、議事録の送付をお願いします。